

平成16年4月(2004年) No.460

## DVDカメラ出現に思う

合原 一夫

ビデオサロンによれば、ソニーも遂にDVDカメラを出すらしい。日立に続いてのDVDカメラである。考えてみれば、8ミリフィルムからVHS、S-VHS、Cカセット、8ミリビデオ、ハイ8ビデオ、デジタルへと目まぐるしく変わってきて、デジタルによろやく落ちついたなあと感じていた矢先のDVD化宣言である。

撮影の分野に限っていえば今のDVテープに何の不満もない。色もよいし、編集の際の劣化もないし、ダビングしても画質が落ちることもない。

テープの価格もひと頃に比べれば格段に安くなった。ミニDV1本60分録画できるのもよいし、カメラの電池も長持ちするようになってきた。

一方、DVDは1枚のDVDで画質優先の撮影では20分だという。ビデオで楽しんでおられる方たちは、今、直ちにDVDカメラに買い替えるとは思わない。しかしながら、撮り放しで編集もしない大半のビデオカメラユーザーは、どうであろうか？

DVDの良い点は再生の時である。CDと同じく見たいところがボタンひとつでパッと出て再生してくれる。だから、マニアでも人にあげたり家族に取り扱いを任せたいときはテープよりDVDの方が便利で、今後ますます作品のDVD化は進むであろう。そこで、一般の単にカメラを持っている方には、DVDカメラに傾き、それが売れて価格も安くなり、録画時間も増えるかも知れない。いつの間にかテープ派はマニアだけになっていたということになるかも知れない。時代の波は次々と新しいものが生まれてくる。が、私は少なくとも撮影だけはDV派で行きたいと思っているところだ。

### 4月例会のお知らせ

4月例会は24日(第4土曜日)18時より、難波市民学習センター(JR難波駅上OCATビル4階)にて開催します。新会場でプロジェクターによる大映写は会員の皆様にご満足頂いていると思います。このところ出席者、出品数とも増え、嬉しい悲鳴です。どうか早めにお越しください。お待ちしております。

## OMC 沼島撮影会

### 参加申込みは 14 名

OMC 恒例の一泊撮影会は、今年は淡路島の沼島に決定し、5 月 3-4 日に行われますが、ハガキによる参加受付けをしたところ、14 名の方が参加を表明されました。

宿の手配からあと 2 名の枠は確保されていますが、欠席とされた方でも、行ってみようかと思われる方がありましたら、至急、合原会長まで連絡してください。

### 参加費納入のお願い

撮影会参加を申し込まれた方は、4 月例会にて、あらかじめ会計（森さん）へ参加費 18,000 円を納めてください。

### ■コンテスト入賞おめでとうございます

第 6 回名古屋ビデオコンテスト

優秀賞「神様はだんじりがおすき」

安居利次さん 拍手！

### ■住所表示変更：宮崎紀代子さん

584-0078 富田林市加太 2 丁目 6-8-201 号  
名簿の訂正をお願いします。なお、市町村合併が進んでいますので、会員諸氏で、住所表示の変更がある場合は、速やかに会長までご連絡ください。

### ■良枝さんを偲ぶ会の開催日、場所決定

このほど 7 月 4 日（日曜日）の難波市民学習センター講堂が確保できましたので、この線で準備を進めております。くわしくは来月号にてお知らせします。

### 新発表会会場の経験

去る 4 月 3 日の土曜日午後、大阪ビデオクラブ（OVC）の公開映写会は、大阪市立中央会館にて開催され、140 名の入場者があってまずまずの盛会でした。初めての会場で、場所も今までのように駅のすぐ上というわけにはいかず、数分歩かなければならないというハンデを背負っていましたが、大阪ビデオクラブの発表映写会として 140 名の入場者があったことは、例年に比べてそれほど落ち込んでいない証として注目されます。発表会を楽しみにして来て頂ける方が大勢

いらっしゃることに意を強くしました。

中央会館のホールは、200 人は楽に入るゆったりとした大きさと、平床で移動式腰掛を並べるのは、阿倍野市民学習センターの講堂と同じですが、天井が高くスクリーンの高さを高く設定できますので、見易いという長所があります。床にはじゅうたんが敷き詰められています。ロビーに椅子が少なく休憩場所としての難点がありますが、会場としてはまずまず立派だと思います。今秋 10 月に予定の OMC 公開映写会もこの会場でやったらどうか、との意見も出ています。

課題としては、会場申込みのしぐみが違い 3ヶ月前の当日が抽選日なので、抽選に当たるまで何日通わなければならないか面倒になりそう。また、じゅうたん敷き会場に対し、雨天でないことを祈りたいところです。

### 3 月例会のレポート

3 月の例会は 27 日の午後 6 時より何時もの例会場で開催しました。司会、吉岡さん、書記、有村さん、デッキ係に河合さん、岡本さん、受付兼証明係を宮崎さん、森口さんの担当で進行しました。

◆出席者：関、江村、有村、増池、奥、合原、渡辺、岡本、河合、前田、藤原、森、上総、森下、華岡、中尾、森口、安居、金子、山本、小竹、進藤、江藤、紙本、岩井、吉岡、宮崎、那須の皆さん（敬称略）28 名と作品本数 16 本でした。

◆上映作品（今月の記録と講評担当：有村博世話役です）

#### 1) 昆陽池にて (2)

増池 茂さん 6分55秒

兵庫県伊丹市にある公園を訪ねて池に浮かぶ白鳥や餌に群がるゆりかもめなどを紹介、都会の中の自然を楽しむ親子連れから昆虫館に入り蝶々の生態などを見せるというスムーズな構成で楽しく見せて頂きました。ただ、全編を通してトルコ行進曲が流れ、特に後半は由紀さおり姉妹の独特な歌唱のライブが入り拍手までありました。よく知られた曲で、後の方はまるまるテレビ

の歌謡番組を連想して、この映像とどうしても結びつきませんので困りましたが、私だけだったのでしょうか。

## 2) キール運河

上総修一郎さん 13分40秒

豪華客船による世界の旅の途中で立ち寄られた運河を紹介しておられます。スエズ、パナマと共に世界の三大運河といわれるドイツの北極圏寄りに作られたこの運河は百キロ近くの長さで、6日もかけて運航するそうです。船上からの映像のみですので、沿岸の人々の生活などを詳しくナレーションで語られ、よく理解の出来る作品でした。見せて頂いた皆さんも恐らく初めて見る光景ではなかったのでしょうか。

## 3) 大阪城梅林

奥 宏さん 4分30秒

梅の木の種類では関西でも屈指の多さを誇るこの梅林の出来た歴史などを、例のパソコン・レディのナレーションで語りながら紹介しておられます。梅の花のアップの間に見物の人達を交えて、見る人を飽きさせない配慮が感じられます。花の作品の難しさと、誰でも撮影に行ける被写体だけに色々な面での気遣いがあったと思います。

## 4) 春景

吉岡 貞夫さん 6分58秒

恐らくご自宅に近い、梅林のある公園に何度か足を運ばれて撮影されたようです。若い女性の演じるお琴の演奏とお点前が美しい梅の間で展開して、題名通りの風情が感じられます。琴の所の雑音を消してBGMにしたらとか、テーマは梅か女性か、とかのヤボな話は抜きにして、着物姿の若い女性と満開の梅を満喫させて頂きました。

## 5) 赤字3セク

安居 利次さん 8分10秒

大阪南港にあるATC（アジア太平洋トレードセンター）とWTC（ワールドトレードセンター）は現在大きな赤字をかかえて社会問題になっています。安居さんはパソコンとの対話形式で、この大阪市の第3セクターが経営する両ビルの内容に鋭い視点から迫っておられます。そして借金返済の引き伸ばしをしながら、別の無意味な投資を止めないお役人の体質を痛烈に批判し

ておられます。私達にはどうにもならないこのお話。楽しい趣味の世界から瞬時に現実へと引き戻された様な思いがして残念に思いました。

## 6) コーンパペンの滝

山本 正夢さん 7分20秒

東南アジアの各地を単独行で楽しんでおられる山本さんが今回発表されたのはラオスとカンボジアの国境付近の荒々しいメコン河の珍しい映像です。そこへ行くのにバスで3日間もかかり、現地には2週間も滞在しての取材だったそうです。現地の方が家族の食料として1匹の魚を釣るのに長時間お付き合いをされたとか、川筋の滝のある部分6キロに第2次世界大戦まであった鉄道も鉄橋も今はなく、その残骸を見せるだけで、静かなたたずまいをみせる風景を見事に描写しておられます。ご本人のナレーションも今回が初めてでしたが判りやすく好感の持てる見事な作品に仕上がっていました。

## 7) 小さなボランティア

前田 茂夫さん 9分56秒

京都梅小路機関区で小型蒸気機関車B2010を解体修理する事になり、子供を含めたボランティアの募集に大勢の応募があり、選ばれた人達、主に子供達の作業風景を中心に描いておられます。ピカピカに磨き上げられ見事に再生のなった機関車に祝詞が捧げられ出発式が行なわれました。誇らしげな子供たちの姿、楽しい作品でした。

## 8) 若狭からの水

森口 吉正さん 9分20秒

奈良東大寺二月堂の修二会が始まった天平の昔、福井県小浜市の鵜の瀬の名水の川底の洞窟に黒白二羽の鵜が飛込み、二月堂前に飛び出してきたという故事来歴にならって、現在では3月2日に小浜の鵜の瀬でお水取りが行なわれた後、3月12日に東大寺の若狭井の水を使ってお水取り行事が行なわれているそうです。名水専門の森口さんは奈良と小浜の2箇所をその時期に取材されて、いつもの流暢なナレーションで紹介されました。何時も見せて頂く「お水取り」映像とは一味違った奥行のある作品に仕上がっていました。

## 9) 秋の彩り

小竹 正さん 6分15秒

葛城山の東、奈良県新庄町にある屋敷山公園の秋を撮影されました。池に浮かぶ白鳥のアップや美しい紅葉に交じって可愛らしい幼稚園児の姿など、1回の撮影にしては多様な風景をたっぷりと見せて頂きました。

## 10) 白の情景

有村 博さん 4分36秒

北海道、網走の涛沸湖や知床半島の白雪の山々、流氷などを交えパソコンのエフェクトを駆使して題名のイメージ作りに挑戦してみました。一番大きな白鳥の着水シーンがハイエイトの映像でスロー画面も含めて画像の荒れをご指摘されました。ブラウン管映像ではあまり目立たない画面でもプロジェクターによる大画面ではより強調される様で、今後が大変だと理解しました。

## 11) 小豆島採石場

渡辺 雄史さん 4分25秒

大阪城の観光案内のボランティアをされている渡辺さんが研修会で訪れ撮影された映像です。全部で40分ある原盤を縮めて要領よくまとめ、ナレーションで詳しく解説され判りやすい作品に仕上げられています。大きな石を陸上、海上と運ぶ道具なども紹介されて興味深く拝見しました。

## 12) 天狗と虚無僧

岡本 至弘さん 12分37秒

和歌山県由良町にある虚無僧発祥の地として有名な興国寺のお祭を取材されました。虚無僧や天狗の眼のアップなど迫力のあるカットがふんだんにあって良かったのですが、踊りのシーンが長すぎました。この3分の1でも充分とのご意見もありました。後ろ姿の踊りはずして、お寺に伝わる天狗と虚無僧の関係などを解説されたりして再編集されると立派な作品になるのではないのでしょうか。

## 13) 新緑の中の島公園

宮崎 紀代子さん 4分40秒

何年かに互って新緑の頃訪れ撮影された映像だそうです。水上バスの中での若い女性は後でお聞きした話では撮影会のモデルさんだったそうで、自然によく撮れているな

あーと思いました。流暢なナレーションでよく理解が出来て、中でも最後の「私の好きな大阪、ここにもありました」で作者の思いがよく伝わってきたように思いました。

## 14) えんぶり

河合 源七郎さん 10分05秒

青森県八戸町で2月17日に行なわれた、国の無形文化財で「えんぶり」という名の民族芸能のお祭を撮影してられました。神社を出て町中に繰り出し街頭、ステージ、公民館など各所で独特の踊りが披露されます。演目が複雑でその意味の総てを理解することは出来ませんがその迫力は満点で興味を惹かれます。夜間の踊りは大きな料亭の庭で金持ちの旦那衆からお祝儀を貰うといった貧しい時代が原型だそうです。雪国に古くから伝わる貴重な踊りを見事に見せて頂きました。

## 15) カウントダウン河内音頭

江村 一郎さん 3分25秒

大阪府八尾の駅前で大晦日から元旦にかけて催された踊りを取材されました。カウントダウンでお正月になり、改めて今年最初の踊りが展開します。ライトがなくて何時もの江村さん独特のカットの切れが見られなかったのは残念ですが、逆にこれはフィルムでは絶対に撮れない映像だったのでしょう。

## 16) みかん箱

江藤 洋司さん 9分08秒

紅葉で名高い香嵐溪を訪ねた作者、江藤さんは足助町の鍛冶屋さんに取材を申し入れて刃物鍛冶職人の広瀬雄一さんの仕事振りを克明に撮影してられました。中でも地金と鋼を溶接する際にダンボール紙を使って火力を増すと容易に接着できる事が分かったとの事で「みかん箱」と言うタイトルになった様です。年配の人々ではみかん箱は木製の箱を連想しますが、今時のそれは紙の箱なのです。今少しナレーションを判り易く工夫されて音楽も加えて完成される事を期待しております。

以上で会員さんの作品上映を終り、何時ものように喫茶店と居酒屋に別れて2次会をみました。